

10 月 18 日は「東アジア保険の日」

～船曳協会長がメッセージを発信～

日本損害保険協会(会長：船曳 真一郎)では、情報・意見交換を通して、海外の損害保険市場との相互理解・交流を推進しており、1962 年に東京で発足したアジア最大の国際保険会議である「東アジア保険会議」(East Asian Insurance Congress : EAIC)にも、生命保険協会と連携して積極的に参画しています。

EAIC の定めた「東アジア保険の日」(10 月 18 日)を迎えるにあたり、船曳協会長のメッセージ(添付 1)を、国内外に向けて発信します。

アジア全体の保険市場が健全な発展を遂げ、社会・経済の発展に貢献していくために、EAIC で行われている活動について、ご理解いただく一助となれば幸いです。

添付資料

1. 「東アジア保険の日」を迎えて(日本損害保険協会 船曳 真一郎 会長)
2. EAIC の概要



2025年10月18日

「東アジア保険の日」を迎えて

一般社団法人 日本損害保険協会
会長 船 曳 真 一 郎

東アジア保険会議（East Asian Insurance Congress: EAIC）が定めた「東アジア保険の日」（10月18日）が19周年を迎えるにあたり、日本損害保険協会を代表してご挨拶を申し上げます。

はじめに、自然災害の被害に遭われた各国・地域の方々に対して心よりお見舞いを申し上げます。

また、被災地での救助・復旧活動等に携わられた方々に深く敬意を表します。



EAICは東アジア各国・地域の保険関係者が集い、東アジア保険市場の研究を行い、あわせて各国・地域間の親善を深めることを目的に1962年10月18日に発足し、第1回東京大会が開催されました。当初、海外からの参加者はわずか20数名程度であったものの、昨年開催された香港大会では、世界30以上の国・地域から1,000名以上の保険関係者が集まるなど、現在ではアジア最大の保険会議へと発展しています。そして、次回大会となる2026年は、EAIC発祥の地である東京で24年ぶりに開催されることとなりました。

2006年には、東アジア各国・地域における保険の果たす役割と重要性、及びEAICの活動への理解と浸透を目的に東アジア保険の日が制定されました。当協会も東アジアの保険業界の一員として、この日を通じて保険の役割・重要性を再確認し、どのように貢献できるかを改めて考える機会としています。

また、当協会は、国連貿易開発会議（UNCTAD）の勧告とEAICからの要請のもと、1972年より、東アジア各国・地域の保険業に携わる方々を対象とした国際的保険技術支援プログラムである日本国際保険学校（ISJ）を毎年開催しています。

東アジア各国・地域の保険業に携わる方々のお役に立ちたいという願いから発足したISJは、50年を超える長い歴史の中で約2,400名の卒業生を輩出していますが、ISJが損害保険の教育研修の場の

みならず、国・地域を超えた参加者間の繋がりを提供する場として、参加各国・地域の保険関係者から高い評価をいただいております。

当協会では、この東アジア保険の日の制定の目的でもある保険の果たす役割・重要性や EAIC の活動への理解と周知のため、引き続き次の取組みを行ってまいります。

1. ホームページ、保険業界紙を通じた広報活動
2. ISJ 卒業生のネットワークを活用し、東アジア保険の日の祝賀を通じた各国・地域における保険の重要性の普及および次回 EAIC 大会への参加呼びかけ

損害保険業界は、損害保険という相互扶助の精神からなる社会インフラ機能の提供を通じて、安心かつ安全で持続可能な社会の実現と、経済及び国民生活の安定と向上に寄与していくことを使命としております。

気候変動による深刻な影響や世界規模で激甚化・頻発化する自然災害、ウクライナや中東などに端を発した緊迫した国際情勢など、我々を取り巻く社会や経済の情勢は日々複雑さを増し、先を見通すことが困難な時代となっております。そのような複雑で多様な環境下においても、当業界はリスクの担い手として機敏に対応し、社会全体の持続的な成長を支え、お客さまと社会に安心と安全をお届けすることが責務であると考えています。

今年度は、2026 年の EAIC 東京大会に参加される皆さまが有意義な議論や課題解決の糸口を得られるよう、生命保険業界とも連携し準備に注力するとともに、ISJ では多くの地域の関心事である自然災害に関連した講義を含むプログラムを予定しており、東アジア地域における損害保険事業の発展に貢献する取り組みを着実に進めています。特に、大規模な自然災害が多く発生する東アジアにおいては、自然災害による経済的損失と損害保険で補償できる補償額の差から生じるプロテクションギャップの拡大も懸念されています。自然災害をはじめ、暮らしや社会へのインパクトが大きいと予想されるサイバー、医療領域などにおけるプロテクションギャップを縮小させることは保険の役割の一つであり、官民連携のもと今後さらに議論を深めていく必要があります。

この東アジア保険の日が、東アジア各国・地域の保険業界で働く皆さまにとって、社会課題の解決に向けて保険が果たすべき役割や、EAIC を通じた各国・地域間の協力・連携の重要性を改めて考えるきっかけとなることを願っております。また、来年の東京大会が、皆さまの情報交換、議論や交流を深める場となることを願い、今後の東アジアの保険市場の益々の発展を祈念して、お祝いの言葉といたします。

以上

EAICとは？

- East Asian Insurance Congressの略で、和文では「東アジア保険会議」といいます。
- EAICは、1962年に東京で発足したアジア最大の生損保合同の国際保険会議で、アジアの保険市場における「国際協力の促進と発展」を目的としております。
- 第1回東京大会の海外からの参加者はわずか20数名程度でしたが、現在では、参加者が800名を超える国際会議に発展しております。各市場の抱える共通の課題解決のための論議の場として、重要な役割を果たしています。
- 日本損害保険協会では、EAIC理事会メンバーへの就任や、大会へのスピーカー派遣等を通して、EAICに積極的に参画し、アジアの各保険市場との情報・意見交換、交流促進を図っております。

EAICメンバー地域

正会員(12地域)

バンドルスリブガワン、バンコク、香港、ジャカルタ、
クアラルンプール、マカオ、マニラ、プノンペン、
ソウル、シンガポール、台北、東京

準会員(7地域)

オーストラリア、バングラデッシュ、ブータン、デンマーク、
フィジー、インド、パキスタン、パプアニューギニア、
スリランカ、イギリス、アメリカ

EAIC会員数(2024年5月31日)

	法人会員	個人会員
正会員	919社	560名
準会員	31社	73名
合 計	950社	633名



これまでのEAIC大会主催地

開催年	開催地	開催年	開催地
1962年(第 1 回)	東京	1994年(第 17 回)	ソウル
1964年(第 2 回)	マニラ	1996年(第 18 回)	シンガポール
1966年(第 3 回)	バンコク	1998年(第 19 回)	マカオ
1968年(第 4 回)	ソウル	2000年(第 20 回)	マニラ
1970年(第 5 回)	台北	2002年(第 21 回)	東京
1972年(第 6 回)	クアラルンプール	2004年(第 22 回)	バンコク
1974年(第 7 回)	ジャカルタ	2006年(第 23 回)	バンドルスリブガワン
1976年(第 8 回)	ソウル	2008年(第 24 回)	香港
1978年(第 9 回)	シンガポール	2010年(第 25 回)	ジャカルタ
1980年(第 10 回)	マニラ	2012年(第 26 回)	クアラルンプール
1982年(第 11 回)	東京	2014年(第 27 回)	台北
1984年(第 12 回)	バンコク	2016年(第 28 回)	マカオ
1986年(第 13 回)	香港	2018年(第 29 回)	マニラ
1988年(第 14 回)	クアラルンプール	2020年(第 30 回)	ソウル(新型コロナにより中止)
1990年(第 15 回)	台北	2024年(第 30 回)	香港
1992年(第 16 回)	ジャカルタ	2026年(第 31 回)	東京

- * EAICは、2年毎に開催されます。開催都市は、メンバー地域のローテーションで決まります。
- * 東京では、これまで1962年(第1回)、1982年(第11回)、2002年(第21回)の3回、大会を開催しています。

最近のEAIC東京代表理事

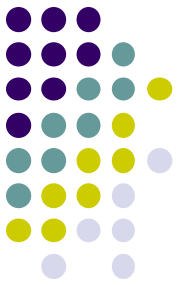
任期	大会主催地	東京代表理事（敬称略）	
1986年-1988年	クアラルンプール	高橋 壽常	日本生命副社長
1988年-1990年	台北	石川 武	大正会場会長
1990年-1992年	ジャカルタ	西尾 信一	第一生命会長
1992年-1994年	ソウル	有吉 孝一	安田火災社長
1994年-1996年	シンガポール	若原 泰之	朝日生命会長
1996年-1998年	マカオ	小野田隆	住友海上会長
1998年-2000年	マニラ	金子 亮太郎	明治生命社長
2000年-2002年	東京	樋口 公啓	東京海上会長
2002年-2004年	バンコク	吉野 泰生	住友生命会長
2004年-2006年	バンドルスリブガワン	松澤 建	日本興亜損保社長
2006年-2008年	香港	石橋 三洋	日本生命副会長
2008年-2010年	ジャカルタ	佐藤 正敏	損保ジャパン会長
2010年-2012年	クアラルンプール	斎藤 勝利	第一生命会長
2012年-2014年	台北	鈴木 久仁	あいおいニッセイ同和社長
2014年-2016年	マカオ	根岸 秋男	明治安田生命社長
2016年-2018年	マニラ	北沢 利文	東京海上日動社長
2018年-2022年	ソウル（中止）	橋本雅博	住友生命社長
		高田 幸徳	（同上。社長就任により交代）
2022年-2024年	香港	船曳 真一郎	三井住友海上社長
2024年-2026年	東京	清水 博	日本生命社社長

※1. EAICの東京代表理事は、1986年以降、生損保両業界から交互に選出することになっています。

2. 東京代表理事の役職名は当時のものです。



最近のEAIC大会テーマ



- **第21回東京大会(2002年)**
“Challenges and Opportunities for Insurance in the Changing World of Financial Services”
(金融サービス変革期における保険業界の挑戦と可能性)
- **第22回バンコック大会(2004年)**
“Asian Insurers in the New Financial Environment”
(新たな金融環境下におけるアジアの保険者)
- **第23回バンダルスリブガワン大会(2006年)**
“East Asian Insurance at the Crossroads of Growth and Profitability”
(成長と収益性の岐路に立つ東アジア保険業界)
- **第24回香港大会(2008年)**
“Staying Ahead? – East Asian Insurers in the Era of Global Challenges ”
(世界的な経済危機の中で、東アジアの保険会社は、一歩踏み出すことができるのか)
- **第25回パリ大会(2010年)**
“Going Back to Basics with a Dynamic New Mindset in Insurance ”
(新たな革新的視点を持って基本に立ち返る)
- **第26回クアラルンプール大会(2012年)**
“Transforming the East Asian Insurers – Time for Action Now”
(東アジア保険業界の転換 – 今、行動を起こすとき)
- **第27回台北大会(2014年)**
“Insurance at the Cross Roads – Coping wit the Change”
(岐路に立つ保険 – 変化への対応)
- **第28回マカオ大会(2016年)**
“The Future of Insurance – Customer Centricity”
(保険の未来 – 顧客中心主義)
- **第29回マニラ大会(2018年)**
“Managing Disruptions, Driving Change”
(創造的破壊への対処、変化への推進)
- **第30回香港大会(2024年)**
“Back to the Future – Empowering East Asian Insurers for 2044 and Beyond
Building on the Foundation and Exploring the Future”
(未来への回帰 – 2044年以降に向けて東アジアの保険会社を強化する基礎を築き、未来を探る)
- **第31回東京大会(2026年)**
“Back to the Origin, A Bridge to the Future” – Asia Reunites at EAIC Tokyo–
(原点に立ち返り、未来への懸け橋に』 ～アジア、EAIC東京で再結集～)